

第 8 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成28年8月24日（水）

開催時間 午前 10 時 00 分から午前 10 時 55 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 守屋 守
教育長職務代理者 白川 太
教育長職務代理者 飯室 元邦
委員 和田 一枝、野田 清紀、武者 稚枝子

出席職員 教育次長 宮沢 雅史
教育監 渡井 渡
教育監 小川 巖
学力向上対策監 井上 耕史
総務課長 小島 良一
福利給与課長 柏木 精一
学校施設課長 望月 啓治
義務教育課長 青柳 達也
高校教育課長 手島 俊樹
社会教育課長 岩下 清彦
スポーツ健康課長 赤岡 重人
学術文化財課長 小澤 祐樹
新しい学校づくり推進室長 鈴木 昌樹
国体推進室長 三井 勉
企画調整主幹 成島 春仁
総務課総括課長補佐 草間 聖一
政策企画監（総務課課長補佐） 古澤 善彦
総務課課長補佐 篠原 孝男 スポーツ健康課副主幹 長坂 嘉久
総務課課長補佐 望月 明男 スポーツ健康課主事 矢崎 文仁
総務課副主幹 保垣 利恵 学術文化財課課長補佐 戸島 章友

傍聴人 0 名

報道 2 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

1 議 案

第 14 号 山梨県指定文化財の指定について

〔説明〕学術文化財課

教 育 長 一般に公開されるお考えはあるんですか。

小 澤 課 長 今のところはまだそういったところには話はっておりません。

野 田 委 員 2 点あります。

1 点目は、こういうのは所有者の許可がなくて指定できるのかどうなのかと、それから 2 点目が、こういうのは指定しますよね。そしたらいじっちゃいけないとか、いろいろあるじゃないですか。例えばこの間ヨーロッパのお城が 1 ユーロで売り出されたけど、そのお城を人が住むようにするには 9 億円掛かったとか、1 ユーロで売っても。しかも直す材料は、その当時の材料で、機械は一切補修に使っちゃいけないなんていうと、もう買うよりも補修料が高い。だからこういうのも指定されるはいいけど、その人の不都合があった時に、直すのにいちいちまたこの許可があるとか、それから補修にそういうものを使わなきゃいけないとかと出てきた時に、この人たち、指定されたはされたでいいけど、何か不都合はないのでしょうか。

- 小澤課長 まず一つ目の国の指定する時に許可をもらうという話ですけれども、もちろん指定するにあたっては、今おっしゃられたように今後現状変更する時にはこういった制限があるとか、そういうものも全てご了解をいただいた上で指定のほうはさせていただいております。
あと現状変更という話ですけど、指定されたあと、やはり文化財ですので、その価値を損なうような変更等というのはやはり認めることはできないということでございます。ですので基本的にはある程度の厳しい制限があるということでございます。ただし県指定になりますと、やはりもし壊れている修繕とか、そういったものには非常にお金が掛かると思います、先ほどの話もありましたとおりに。その部分については応じて県から補助金を出すというようなことで対応はしたいということでございます。
- 野田委員 こういうのは段々増えていって大丈夫なんですか。段々、毎年補修費ばかりかさんでいって、そういうことはないの。
- 小澤課長 基本的には補助金の部分についても上限がございますので、その点で緊急性とか、優先順位とかを付ける中で補助等も出していくというふうに考えております。
- 白川委員 増えるけど減らないですよ。
- 野田委員 そうですよ。
- 和田委員 さっき教育長もおっしゃったんですけど、結構他県に行くとか一般公開されている所があって、旅行のコースになっていたりとかして、中に実際に入ってみて、ああ、すごいんだなってことも分かったんですけど、ちょっと駐車場の問題も難しいかと思うんですけど、大変貴重なものとか、地域の歴史を知ることによって、あの辺学校もたくさんありますよね、周辺に。だからできたら公開をしてほしいなと思いますけど。
- 小澤課長 所有者とか、道路部分とお話をする中で、どんな方向でできるかというようなことと、合わせて甲府市の教育委員会と合わせてまた検討させていただきたいと思っております。
- 飯室委員 基本的にもう少し県民に広く伝える窓を広げて気軽に行けるとか、しかもここは10軒もあればここを1年間に10個巡回したら何かスタンプラリーで何か出すとか、そうやってちょっと文化・芸能・スポーツをやったり県民がもっと関心を持つようなアクションを起こして、ただ認定しただけじゃなくて、そこから、これからどうするかという、そのストーリーを作られたほうがよろしいかなと思います。この中で見れるのか幾つあるとか、そういうものを分析して提供していただければ、子供たちも大人も行ける所はそういう形で気軽に行けるように、ぜひよろしくをお願いします。
- 小澤課長 飯室委員のおっしゃるとおり、今までどちらかと言うと文化財の保存という部分に、過去力を入れてきたという経緯はありますけれども、今活用ということもございますので、その部分につきまして今まで県のほうもうまくいってない部分もあったかと思いますが、積極的にやっていくようにがんばっていきたいと思います。
- 教育長 今、飯室委員がおっしゃったことで、例えば甲府が開府500年だとか、甲府城の周辺整備のあとにいろんな活用の方策を考えるんだと思うんですけども、こういうのは甲府とか地元の市町村さんが町づくりだとか、どうやって活用されるのかという、そういう連携というのはどうやって図られているんですか。
- 小澤課長 活用策については基本的に県ももちろんアドバイスとかしていくわけですが、その点の文化財をどう面にしていくかという部分につきましては市自体の文化財もございまして、その辺も連携合わせてという部分であると市のほうで行っていただくということにはなるとは思うんですけども、ただ我々としてもいい文化財については積極的に保護していきたいと思います。
- 教育長 今回の話は甲府さんもお存知なんですよ。

小澤 課長 甲府もご存知です。今まで甲府も承知しております。甲府市の指定文化財にすでになっておりまして、甲府のほうからも県の指定にふさわしいというようなお話もいただいております。

教 育 長 今も市町村のご担当の会議だとか、そういうのがあればぜひそうやって点でなくて面で、飯室委員さんおっしゃったように面で活用ができるような、そういう働き掛けもぜひやっていきたいと思います。

【原案どおり決定】

2 報告事項 な し

3 その他報告

(12) 山梨県図書館協議会委員の公募について

[説明] 社会教育課

野田 委員 1点目は今現状で15人いて、2人交代というか、任期切れになってということですね。

岩下 課長 全員交代なんですけど、そのうちの2名を公募させていただくと。

野田 委員 2名を公募ということか。それって留任じゃないんですか。

岩下 課長 留任もあります。経緯に、委員15人の内訳が書いてありますが、学校教育の関係者が2人、社会教育の関係者が4人という形の中で、公募がその2行目の端にあります。全員の公募で一般県民の方々からこういうものに興味があるのという、職種とか団体に所属しているということに関わりなく応募していただく。逆にそういった団体の方々には応募資格がないという形で公募するものでございます。

野田 委員 2点目はね、こういう公共の意見をするとかね、官庁に対して諮問に応ずるとか、官庁に対して意見を述べる機会があるけれども、例えばその人が余りにも右っばいとか、余りにも左っばいとか、そういう思想の偏りと言うか何と言うか、そういうのがあるかもしれないと、そういう審査みたいなものはどうするんですか。

岩下 課長 先ほど申しあげましたように選考委員会の中で検討させていただく中で、今回も2名以内というようなことでふさわしい方かどうかということについてはそこで慎重に選考させていただくことにしております。

野田 委員 慎重に選考するのは、当然だろうけど、そういうある程度公平中立な思想信条がないと、いろんなものが客観的に物事見られないんじゃないかなと思います。

教 育 長 まずは作文だね。作文を書いてもらって、その方がこちらで設定したテーマにどういう考え方があるのかということで、これだけの幅があって、常に真ん中じゃなくて、こっちもあってと。

野田 委員 そうです、そうです。余り右だとか左じゃ困るけど、ニュートラルになってある程度幅を持たした人選というのは必要だと思うんです。

教 育 長 それでまず作文のほうでどういうお考えかということは見るので、その範疇で上げて、我々にとって気持ちいい話しかしてくれないというのもしゃっぱり困るし、建設的な話、要はつぶす話ばかりされてもまた建設的な話じゃないので、そういうところは作文等でご確認をしてさせていただきながら。

野田 委員 面接とか、しますか。

岩下 課長 面接はないです。申込書の中にも自己PR等もありますので、これまでの活動とかお考えとか、そこで読み取れるかなと思います。

- 教 育 長 今は県の総合計画の審議会もそうですし、こういう会議とか審議会じゃあほとんどこういう公募して、有識者の方はいいけど、県民目線で見ると、素人感覚で、あっ、そういうことが心配されているのかというようなことが分かるような構成にしているので、15人中2人、大体このような割合で県民の方から応募いただいているというのがあるんですけどね。特に大体どこも同じような形で選ばれているんだと思うんですね。
- 野 田 委 員 そうですね。こういう公募というのね。
- 和 田 委 員 選考委員会のメンバーはどんな方たちなんですか。
- 岩 下 課 長 選考委員会は4名で構成させていただいておりまして、山梨県図書館協議会の会長様、それから教育次長様、それから県立図書館の副館長様、そして私、社会教育課長ということで、4名で選考することになっています。話が戻って恐縮ですが、先ほど野田委員さんのご質問にも一つお答えしますと、そんなこともありますものから、最終的に委員についてはこの教育委員会に諮らせていただいて、委員さん方の合意を受けた上で委員が決定するという法令上の仕組みになっております。
- 飯 室 委 員 基本的に審議会はもちろん決まっていることだからいいと思っている。ただ僕らはやっぱり図書館を利用している人たちの何か図書館に対する希望の声とかね、そういう受け皿とか、そういうのはあるんですか、今。
- 岩 下 課 長 アンケート調査等も定期的に行っておりまして、広くご意見を伺うようにはしております。
- 飯 室 委 員 結構図書館を利用する人たちは結構多くて、駐車場が1時間無料だけど、50分で1回出て、また入ってくると。仕事上の勉強しても、ちょうど休憩でちょうど・・うちの会社も結構県外の図書館いっぱいやっているんですけど、もう1回県内の図書館もいいんだけど、県外でやっぱり進んでいる図書館はあると思うんですよ、いろいろシステムとか、そういうのが、ソフト面が。そういうのがやっぱり広くアンテナを高くして、いいところはどんどん取り入れて、自分で考えても中々アイデアは出ないですから、やっぱり先進県とか等々で進んでいる、そういうような事例を引っ張ってくれば、もっともっと駅から近いし、利用者もさらに増えて前に行くと思うんですよ。ぜひそんなことでよろしく願います。
- 教 育 長 県立図書館は今指定管理でお願いをして、民間の企画だとか、そういうところは県の教育委員会の職員がやっているわけですが、運営みたいな、管理自体は外部に委託して、全国で今2位でしたっけ、公立図書館で、県立で。順調には行っていますが、やっぱりずっと同じことをやっているとしたら時代の流れに追いついていかないと、やっぱり飯室委員の言われたように、いいところを、別に年間契約じゃなくて、ライバルでも何でもないので、それぞれいいところを取りながら、なるべく多くの利用ができるように進めて行くようにします。1位が岡山県の図書館ですよ。この前インターハイがあって、岡山の県立図書館の中を見てきたんですけど、規模が大きいんですよ、あそこね。かなり規模大きいですよ。ただ密度はうちの図書館のほうが多分ある。特に若い高校生だとか中学生だとか、大学生、若い方が非常に多くいるというのが特色かなと思います。あといろんな会議スペースがあるので、民間の方々が要は図書館と関係なくて、町の拠点みたいなそういう位置付けになっているので、あそこでビジネスの話もするし、いろんなことがあそこを拠点にして、会議室がないところはうまく使われているような気がしますし、そういう点では中々2番だけど、ものすごく使い方はコンパクトで効率的かななんて、まあ4月から来たんで、そんな感想を持っているんですけど、ただそれも10年同じことをやっているとしたら、少しずつ陳腐化していくので、ぜひ委員さん言われたようなことを新しい指定管理者の方にもお伝えするし、職員の方も意識するようにやっていくようにいたします。ありがとうございました。

(13) 中国・四川省へのスポーツ交流団派遣について

[説明] スポーツ健康課

- 白川委員 昭和62年からスタートしていますね。結構長く四川省さんと交流をしていると思うんですが、スタートした時には、ただの四川省さんとの交流ということの目的でよかったのかなと思いますが、時代も変わって、今山梨県ではグローバルだとかという教育というのをものすごく前面に言っていますよね。そういう中、このスポーツでの交流というのはまさしくこのグローバルの教育の一つではないのかなと思います。スポーツのバスケットを、ただ試合をしたからどうのこうのよりも、そこから芽生えるというか、生まれる、例えばそのあとの交流だとか、その生徒たちが何かを成長したとかということところが私ものすごく今の中では、そっちのほうが何か重要なことじゃないのかなと感じています。ちょうどオリンピックも終わって、オリンピックってスポーツ見ていると各国間のこういう交流とか、何かいい話って結構我々が知らないところで出てきますよね。スポーツは、ものすごいグローバルには貢献できる、成長させる、貢献できるものではないかなと思っていますので、そういうような何かあとあとのフォローというか、何か結び付けるようなものを少し考えていかれるほうが、それを今度、こんな成果がありましたということ各県だとか小学校、中学校に働き掛けて伝えていけるとか、そしてスポーツの素晴らしさとか、スポーツは体のためだけじゃないんだよという部分が広がっていくといいんじゃないかなと思うんですけど、そんなようなことももしあれでしたら考えていただければ、何となくもったいないなという気がしています。
- 野田委員 白川さんがおっしゃるように結局行っただけになっちゃって、フィードバックもない、何のためにやったか分からないんだよね。
- 白川委員 多分最初は交流だったから、その目的でよかったんでしょうけれど、もうマンネリしちゃうんじゃないかなという気も、何となく聞こえてきちゃうように想像しちゃうんですけどね。
- 赤岡課長 確かにご指摘の部分というところもあながち否定はできないところがあります。特にこちらから向こうに行くというのは、もう限られた人数しか行かないので、ちょっと限定的にその効果というのは限定的になってしまうかもしれない。ただ去年、こちらが迎え入れる段階では結構広い、高校の中で受け入れたりしますので、その意味である程度広がりというのはあるんですが、確かにご指摘のとおりもっと効果というのを広げる工夫というのは必要であろうと思います。改善の余地はあるだろうと。
- 白川委員 よく違うところの資料の報告で山梨県のグローバルの取り組みというやつで、例えば一都十県なんていう委員会のやつがありますよね。ああいう所に行くと、こういうような活動というの僕もグローバルに入れてもいいんじゃないのかなと思うんですよね。でも何か知らないけど、こういう所は入らないで、あくまでも教科的にやっていることがグローバルというふうになっちゃっているのは何かもったいないなと思って、何となくこういうことって波及させるのにできやすいことじゃないかなと思いますので、もしよろしければ検討していただければと思いますけどね。
- 赤岡課長 実際やっていることは生徒の交流を図る中で、そこって国際交流、国際理解、実際に生徒同士がお互い、最初は距離を置いているんですが段々近寄ってくる、この短い期間の中で段々近寄って親しくなっていく。お互いが理解するという、実際その流れがありますので、そういう意味でこれはまあ一つの国際理解というか、国際交流の一つのプログラムであることは間違いのないと思っておりますけれども。
- 野田委員 3点。1点目がなぜ5年にしたのと。5年も間が空くと交流というか、間が抜けて前を知っている人もいなくなっちゃうし、本当に交流の意味があるのかどうなのか、5年空いちゃうと。2点目は女子の交流が多いのはなぜか。種目はどうやって選定するのか。気になるのは、後ろを見るとコーチも含め、選手以外は皆男性なのね。女の子を連れて行くのに何かあった場合に、女性の先生とかコーチとかいたほうがいいんじゃないの。

3点目が、こういう女性の選手、3年から1年生までいるけど、どういう基準でこれ選ばれたのか。その3つです。

赤岡課長

まず1点目の、なぜ5年サイクルかということなんですけど、これは出だしはもっと頻繁、毎年だったんですけど、結局中国側との交渉、中国側からこれは5年に1回にしてくれという、向こう側からの申し出があって、お互い双方のそういう要望を受けた結果で5年というところに落ち着きました。それから、これ女子ばかりではないかとか、あるいは選手はどうやって選ばれるんだ、その両方ともなんですけど、これも中国側と、じゃあ次はなんの競技をしましょう、どういうメンバーにしましょうということも中国側等と相談する中で、じゃあ次はこの競技ということで、今回はバスケット、じゃあ次は何々というところで競技が決まっています。そのメンバーについては山梨県から送る場合には、このバスケットボール協会では選手の選考をさせていただいております。バスケットボール協会では、これ選手強化の一環として位置付けていますので、それなりに、要は将来を担うような選手たちが選考されているということでございます。引率については、この引率者というのも協会のほうに任せているんですけど、結局今のこの社会というか、コーチが男性が多いということが結果としてこういうことになっているのかなというふうに思っております。

野田委員

何もなければこれでいいけど、何かがあった場合に女性の引率って絶対僕必要だと思うよ。

和田委員

私も同じ。あとで言おうと思ったんですけど、やっぱり女性が一人は職員が付いていくなりしたほうがいいと思うんですけど、女子の場合ですね。

武者委員

スポーツと体調管理というのは少し遅れていて、東京オリンピックのところで一応見てきた方がいいと、まだまだオリンピックに女性が参加し始めたのはすごく遅くなってからなので、まして日本はまだまだ遅い。今回中国の選手は今生理中で、生理中だったからうまくパフォーマンスできなかったという水泳の選手がいて、結構世界中に波紋とか、大変だったんですけども、もし本当に割と女子が確かに選ばれる競技が多いようなので、それだったらぜひ医療のほうともタイアップをして、特にここ山梨で仕事をしていますと本当に女の子がエーって言われて駆けつけたりするんですね、非常にひどくて、本当に競技がうまくできなくなってくるんですね。例えば女性であれば月経のことなんかも体組成濃度が食事で節制されて、それをコーチに言ったところ、うえてなるというのはアスリートの勲章だと言ったコーチとか監督がいて、もうボロボロになって学生さんがやってくるんですね。結構陸上部の子が相次いで真面目な子がやってきて、中学まではいい扱いだったんですけど、高校に入ったら全然だめだと。太っているからと言われて、どんどんダイエットをする。そしてもうみんなに食べてもらう。陸上なんかだったので、水着みたいな格好でやっていて、女の子たちはお腹が出たりすると、そこで実はすごい月経痛がひどくなっていて、走れば走るほどタイムが落ちるという状態になっていて、いい選手が全然芽が伸びないばかりか、もう全てがうまくいかなくなってしまうなんていうお子さんがちょっと相次いで一昨年なんかいたんですね。だからこれをきっかけに女性の医学とスポーツというのは、もう何か山梨県が発信できるかなんていうのも思います。男性と女性は全然違うので、特に女性の場合は成長期が重なるものですから、今まで一般の医者も含めてなんですけど、思っている以上に深刻なアスリートとか、運動されている方が多いんです。それからあと中国、先ほど白川委員さんがおっしゃられましたように、せっかくこれ中国に行って今いろいろ何かと問題になる中国なので、ぜひ、ただ行って強化というだけじゃなくて、またもしこの人数だけで、例えば帰ってきて中国こうだったよと。多分今日ももしかしたらニュースなんかで、こういう結団式やりましたなんていうのが出るかもしれないですけど、それだけで終わっちゃっていると思うんですね。じゃあ帰ってきて、この、生徒さんたちはスポーツで大変かもしれないですけど、こうでしたよと身近に学生さんたちがそういうふうに発表できるようなところがあったら、より身近に四川省と山梨で交流しているんだねなんていうような、身近に感じられるかなんて思いました。ぜひ付き添いの方には女性もぜひ欲しいですし、あとこれからスポーツをする時に、そういった女子のアスリートがすごい出ているので、これ県でもそこはこれからぜひそういった視点でもっともっと進めて行くと、山梨が最先端になるということは可能だと思います。

- 飯室委員 基本的に僕はこの提案する時代のシステムはちょっとおかしいと思うんですよ。今日結団式をやるのを今日承認しろってさ、これ僕らが否認したらどうなるんですか。
- 赤岡課長 これは報告として
- 飯室委員 報告であっても事前にやっぱり行うというのが、一回出して、今度こういうことがありますから、こういうバスケットが行ってこうなっていますという、それがないとこれはもう決まったから、もう勝手にそっちでやってくれという。僕はさっき野田さんがおっしゃったように何かインターバルが5年とか4年とか3年になっているんだけど、それは時代は変わってきているから、12年の時に事業見直しで5年サイクルになっていますから、今もう28年だから16年経っているんですよ。それはもっとやっぱり四川省と詰めて、いいことはやっぱり回数を増やしてもいいと思うんですよ。それをやっぱり提案して、もう決まったのをそのまま動くでなくて、やっぱり時代は変わっているから、しかもスポーツで友好というのは非常に大事なことであって、それは3年を2年に1回やるとか、そういう前向きな議論をしていかないと、もう決まったからそのままやる。あとはもう振っちゃって、バスケットだと。これ見たって、バスケット2回あるんですよ、昭和62年から見ると。ほかの種目なんかでは行きたいなという種目はあると思うんですよ。この辺りは何か公平でもないような感じがするし、何かやっぱりもう少し一ひねり、二ひねり考えてしていかないと、いつも机の上の決まったのをそのまま丸投げしてきて、それでまとめて、はい、報告ですという、そのシステムはすごくおかしいですよ。だから教育委員会はもっとその辺を直して、新しい発想でやっていくということを考えていかないと、全然進歩しないと思うんですよ。ぜひその辺を切にお願いしたいと思います。
- 赤岡課長 今の委員ご指摘の話は、この事業に限らずということかなとは思いますが、まず少なくとも確かにこれについて言えばもう見直し。それは時期、回数、競技の種目だけではなくて、先ほど武者さんのご指摘や委員各位からご指摘いただいたとおり、その広げ方、その効果の波及のさせ方というのをちょっと見直さなきゃならないという部分もあるので、そのいただいたご意見を基に検討させていただきます。
- 教育長 貴重なご意見ありがとうございました。教育委員会の報告の時期も含めて、次回以降につきましてはなるべく適切な時期に諮るようにご報告させていただくようにいたします。ありがとうございます。
- 野田委員 もうこれ結団式があれば女性の選手を連れて行くというわけにはいかないわけでしょう。
- 白川委員 もう決まっちゃっているわけです。
- 野田委員 いかないわけでしょう、そういう意見が出たってさ。外から見てるとこういうこと分かるけど、じゃあそのままだったらそのままになっちゃうということだものね。
- 白川委員 これは中国のほかに韓国もありますよね。
- 赤岡課長 韓国もあります。
- 白川委員 そうですよ。今、中国と韓国の2カ国ですか、やっているのは。
- 赤岡課長 そうです。
- 白川委員 韓国は何年に1回やっているんですか。
- 赤岡課長 韓国は3年のローテーションで回しています。
- 教育長 いろいろすみません、ご指摘いただきましてありがとうございました。これを踏まえて、対応できることは対応します。ありがとうございました。

白川委員 先日、ちょっと私思ったんですが、一日教育委員会を開いた時に、一日教育委員会の開催は市川三郷町でしたよね。年に2度くらい親御さんと呼んだりしてやっているんですけど、今までもいろいろこう反省点が出ているんですが、何かあれがうまくもう少し活用できないかなと思っているところがあって、一つちょっと思っているのはPTAの親御さんが来るのにかなり無理している部分もあって、昼間ですよ。それで前も何か夜できないかとか、親の負担がないようにですね。例えば土曜日だとか日曜日にできないかなとかという意見も前あったんですけど、その時にも大体決まったことが次回そういうことを検討してみましょうで、余りその時間帯のずらしたとか検討はできなくて前回にもなっているんですが、あれをまた私はもう一回提案をしたくて、やっぱり親が集まれる時間だとかというところも考えてやるだとか、何か考えて。ただ親のほうで昼間がいいと言うんだったらそれは別かなとは思いますが、そこが一つ。それからあと中身についても、前は非常にあの雰囲気の中で親に質問をしるといった時の親のほうからの質問というのが非常に少なかったというか、消極的だったのが、せいかくのこういう機会なのにもったいないと思うんですよ。多分皆さん言いたいことってあるとは思いますが。だからあの辺の何かしらの事前に少しでもキャッチして、例えば質問票を最初からもう書いてもらっておくとか、誰かが口火切ってくれるという仕掛けと言うんでしょうかね、そんなようなものを少し働きかけたほうが、何かあの2時間をもっと有効に使ったほうがいいかなというふうに、そこをぜひ再度のこれ提案になるんですが、考えられたほうがいいなと思っています。

小島課長 実は今白川委員におっしゃられたようなことを、たまたま市川の会場の中で同じ教育庁舎におられた委員さん方からもお話も出ましたし、教育長からも指示を受けております。もう少しやり方を考えたり、あといろいろ今検討しているところですけども、最初に授業説明、細かいのをしてしまうので細かい授業の話が出てしまうんじゃないかと。もう少し委員さん方とお話をさせていただくのであれば、施策の方向性とか、施策的なものをご質問いただく中でお答えをしていただく。あれだとみんな各課の課長が答えるようなご質問しか出てきませんので、そういった誘導も含めて仕掛けのやり直しというのも必要でしょうし、今白川委員さんから言われたちょっと時間の話はまた改めまして検討させていただきたいと思いますが、ちょっと次回の吉田には間に合いません。もう通知も発送してしまいましたので、少しの工夫ができることだけはやるうと今思っていますけど、いずれ来年度に向けてという話になって恐縮ですけども、2度立て続けに今回やってしまいますから、来年度に向けては改善を考えて、またこの委員会でお諮りをさせていただきたいと思います。

白川委員 ぜひぜひそれを・・・

小島課長 一回素案を出させてもらいます。

白川委員 本当に2年、3年、いつも同じ反省点を続けるので、私本当に先ほどからあるように、ここは本当にもう変えるべき、教育委員会として変えることの一つじゃないかなとは思っています。

小島課長 分かりました。申し訳ございません、繰り返して。吉田が済んだタイミングぐらいで素案を出させていただきまして、また改めてご意見、ご提案をいただきたいと思っています。

教育長 今回は地元の市川の教育委員会の方々にご意見をいただきながら、例えば今白川委員が言われたような案についてはどう思うかとか、最終的には地元の方々に負担を掛ける話もあるので、実際にPTAの皆さんがどうお考えになっているのかもがあるので、ぜひ今回の市川と、それから富士吉田も来年度の話も今年度中に方向性をこの委員会の中で出したいので、その中で議論を、意見をいただきながらいい方向に持って行くようにしましょう。ありがとうございました。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕